

第3回イオン未来の地球フォーラム 「いま次世代と語りたい未来のことー自然の恵みー」開催報告

■開催概要

1. 主催

公益財団法人イオン環境財団、東京大学国際高等研究所サステナビリティ学連携研究機構（IR3S）、フューチャー・アース

2. 後援

外務省、文部科学省、農林水産省、環境省、日本学術会議、総合地球環境学研究所、国立環境研究所、地球環境戦略研究機構、フューチャー・アース日本委員会

3. 日時

2019年2月2日(土) 13:00～17:30

4. 場所

東京大学 安田講堂（本郷キャンパス）

5. 参加人数

約600名

■開催趣旨

「イオン・未来の地球をともに描く対話型フォーラム」では、シリーズで、地球の環境変化に伴って起きている自然と人間社会における問題について、最新の科学的知見をわかりやすく解説するとともに、それらの問題や現象が起こっている背景、解決すべき課題と方法について、参加者とともに考える。環境教育の概念をより一層発展させ、国際共同研究プラットフォーム「フューチャー・アース」の理念に沿って対話型討論を行い、持続可能な社会を世代や立場を超えてともにデザインするコ・デザインの手法を試みる。

第3回は、フューチャー・アースが設定した「知と実践のためのネットワーク」のテーマの中から『自然資本』を取り上げ、具体的な課題解決について、参加者の皆様とともに考えた。冒頭で、基調講演として専門家に現代の問題をわかりやすく解説していただき、その後、参加者のとの双方向の対話型討論を行った。

<講演概要>

地球温暖化による異常気象、食糧問題や自然資源の枯渇など地球と人間との間で様々な問題が起こっており、今回は自然資本に関して①地球環境ファシリティ（GEF）統括管理責任者（CEO）兼議長の石井菜穂子氏、北海道大学大学院農学研究院教授の中村太士氏、環境省総合環境政策統括官の中井徳太郎氏が基調講演を行った。

①人新世における地球のステewardシップについて、地球規模での現状が紹介され、自然資本をサステナブルに管理するには今後何をすべきかということについて、グローバルな視点から説明があった。

②日本の森林の過去と現在の比較、災害後の状態等を様々な地域の森林写真を用いて説明があった。自然豊かで安心安全な地域づくりには、グリーンインフラを推進することが重要で

第3回イオン未来の地球フォーラム 「いま次世代と語りたい未来のことー自然の恵みー」開催報告

あり、その事例として北海道の舞鶴遊水地へタンチョウを呼び戻す取り組みについて紹介された。

③第5次環境基本計画の概要について説明があり、特に地域循環共生圏について配布資料をもとに詳細な情報の提供があった。

<対話型パネルディスカッション概要>

次世代からの話題提供を、種子島高校（鹿児島）、国分高校（鹿児島）、佐渡高校（新潟）より各高校2名ずつ、東京大学環境三四郎のメンバー2名よりいただいた。

基調講演者の3名に加えて、イオンアグリ創造株式会社の福永庸明氏、日経BP社の藤田香氏がパネリストとして登壇、モデレーターは自然環境センター渡辺綱男氏の進行のもと、現在の課題とその解決方法について議論した。

【参考】



会場となった東京大学安田講堂



約600名にご参加いただきました



地球環境ファシリティ石井 CEO による講演



北海道大学中村教授による講演

第3回イオン未来の地球フォーラム
「いま次世代と語りたい未来のことー自然の恵みー」開催報告



環境省中井統括官による講演



パネルディスカッションの様子

以上